

そして最後が八幡浜市立日土小学校。設計は松村正恒（1913～1993）です。保存再生され、平成24年12月28日に国の重要文化財に指定されました。そして直前の11月13日にはニューヨークのワールド・モニュメント財団からノール・モダニズム賞を受賞しました。日本でも世界でも大きな評価を受けたというのが1956～58年に建てられた建物だということで、戦後のものをどう見ていくのかということを緊急に考えなければいけないのではなからうかと思っております。



日土小学校（八幡浜市）

○岡崎 ありがとうございます。今もご覧いただきましたように、日土小学校の保存にご尽力された曲田先生らしい展開で公共建築の魅力、特に学校建築が愛媛は素晴らしいということからモダニズムに至る流れをご紹介いただいたわけです。本当に悩ましいのは愛媛には何でこんなに多いのだろう。時間が無いじゃないかというくらいでございます。二村先生のほうで産業遺産についてのこともおっしゃってくださったのですが、私にも少し落穂拾いをさせていただきます。地質図を先ほども伊東先生がご紹介してくださったと思いますが、割と別子銅山という大きな星のような輝かしい遺産があるものですから、ほかの中小鉱山については目くらましになってあまり目立たない。でも、このように銅山分布が三波川変成帯の緑色のエリアには散らばっているということで、少しその辺りを補足したいと思います。



「高山湾頭風景」是沢八郎・画（高山公民館、蔵）

これは先ほど来から何回か出てきている明浜町の石灰窯、在りし日のころの明浜町高山地区の様子です。ご覧ください、この白く立ちのぼる煙。これは生石灰に水をかけて消石灰にするときに立ちのぼる白い煙です。非常に貴重なものが高山公民館には絵画として掲げられています。

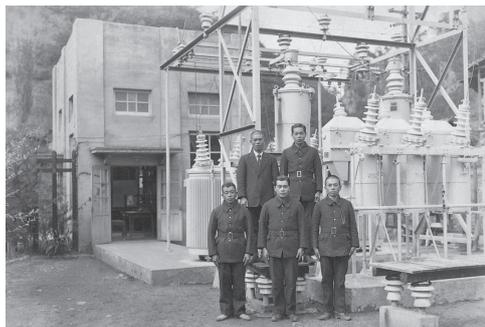
それから銅鉱山も本当にあちこちにありまして、先ほどの地質図をちょっとイメージしていただきたいのですが、中予地区の辺りも集中しているんです。だいたい行政区でいうとどの辺りかということ、伊予市の中山地区です。背中合わせで内子町の大瀬、伊予郡砥部町の広田村辺りが集約した銅鉱山分布地図です。あとは佐田岬半島領域ということになります。それで先ほどの焼鉱窯は、初期精錬の焼鉱窯がいたるところに口を開けております。地元の中山史談会のお歴々が刈り払いをして写真を撮れるように、この1枚を撮るためにどれだけの人が動いたかという感じで支えていただきましたが、非常に尽力くださいました。



寺野鉱山焼鉱窯跡（伊予市）



大瀬鉱山索道会社



広田鉱山変電所